

# 栃木工場

トラック・バス用タイヤ、乗用車用タイヤから  
地下鉄・モノレール用タイヤまで幅広く生産

操業開始 1971年4月（国内タイヤ工場として7番目に操業開始）

敷地面積 484,000m<sup>2</sup>

生産品目 乗用車用、トラック・バス用、小型トラック用、  
モノレール用タイヤ



①正門 ②事務所 ③主工場 ④バンパリー棟 ⑤保全センター ⑥試験センター  
⑦コ・ジェネレーションシステム ⑧使用済みタイヤ焼却発電設備

## トラック・バス用から地下鉄・モノレール用タイヤまで生産

栃木工場は1971年にブリヂストンの国内7番目のタイヤ工場として、また、日本初のトラック・バス用ラジアルタイヤ専門工場として誕生しました。その後、1979年には乗用車用ラジアルタイヤの生産ラインも加わり、ブリヂストンの主力工場の一つに成長しました。現在ではトラック・バス用超偏平タイヤ「GREATEC（グレイテック）」や、東京モノレールをはじめとする国内外の新交通・地下鉄等の公共機関へ納入するタイヤなども栃木工場で生産しており、利用されるお客様の安全運行を支えています。

## トラック・バス用の超偏平タイヤ「GREATEC（グレイテック）」

栃木工場では、大型トラックやバスにおいて従来片側2本あったタイヤを1本にした、トラック・バス用の超偏平タイヤ「GREATEC（グレイテック）」を生産しています。

「GREATEC（グレイテック）」は、通常2本使用されるトラックやバスの後輪を1本にして重量を軽くすることにより、燃費向上や排気ガスの排出量低減の実現に貢献します。また、省資源や低騒音などの面からも環境にも配慮した商品です。



GREATEC(グレイテック)

## 防災意識の向上に努めて

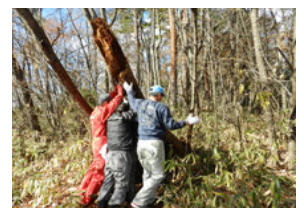
2003年9月8日の火災事故の記憶を風化させない、また、今後火災事故を起こさないためにと、2004年9月に「防災の鐘」を設置しました。毎月8日を「栃木工場防災の日」と定め「防災の鐘」を鳴らしています。また、毎年9月8日には、栃木工場だけでなく、本社や他の工場においても防災訓練などを行い、防災意識の向上に努めています。



防災の鐘

## 地域社会の一員として

栃木工場では、自然・地域との共生を目指して、「CO<sub>2</sub>排出量削減活動」、「環境改善活動」、「緑化推進活動」、「社会貢献活動」の4つの活動を柱とした「グリーン・ハーモニー・プラント活動」を推進しており、工場内に造園したピオトープの地域開放や地域主催の美化活動などに取り組んでいます。また、林野庁の「法人の森」制度を活用し、栃木県那須塩原市に「エコピアの森 那須塩原」をオープンして、2005年7月より定期的に従業員ボランティアによる植樹や森林整備を実施しています。栃木工場はこうした活動が評価され、2010年に財団法人都市緑化基金が主催する「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」に優良事例として認定されました。また、2011年3月に発生した東日本大震災の被災者支援として、物資援助や現地でのがれき処理などのボランティア活動にも力を注ぎ、積極的に社会貢献活動を推進しています。



エコピアの森 那須塩原

## 厳格な品質管理と更なる生産性向上への取り組み

ブリヂストンでは、「最高の品質で社会に貢献」を使命とし、工場の生産活動において、きめ細かい品質管理が徹底して行われています。栃木工場では、厳格な品質管理とともに生産性の向上を実現するため、各職場でスルラク活動<sup>(注)</sup>をはじめとする様々な改善活動を活発に行っています。

(注)スルラク活動：

良いモノを標準通りに作って、標準通りに流せる生産状態を実現する或いは維持するための活動。



## 環境に配慮した工場を目指して

栃木工場では、使用済みタイヤをエネルギーとして有効活用することを目的に1995年に使用済みタイヤだけを燃料とする焼却発電設備を日本で初めて設置しました。この設備によって得られる電力は工場内で使用しています。また、焼却後は、鉄や亜鉛などの金属を回収した上でセメントの材料として再利用するなど、リサイクルをしています。また、ブリヂストンではCO<sub>2</sub>排出量の削減に大きく寄与するコ・ジェネレーションシステム<sup>(注)</sup>を国内の多くのタイヤ工場に導入しています。栃木工場は2004年12月から稼働を開始し、限られたエネルギー資源の効率的な利用を図っています。

(注)コ・ジェネレーションシステム：

1つの燃料から電気や熱などの2つ以上の有効なエネルギーを発生させるシステム。ブリヂストンでは、発電時に発生する廃熱を利用して蒸気を発生させ、エネルギーを効率的に利用しています。



使用済みタイヤ焼却発電設備



コ・ジェネレーションシステム



空気圧点検

ご存知でしたか、タイヤの空気圧は自然に低下します(1ヶ月で約10~20kPa)。走る前に冷えている状態で定期的(月1回)に点検してください。適正空気圧は車種によって異なります。運転席側のドア附近に貼付された、空気圧表示シールで確認してください。

エアゲージをお持ちでない方は...



マークのある販売店では、タイヤの安全点検を実施しております。お気軽にお立ち寄りください。



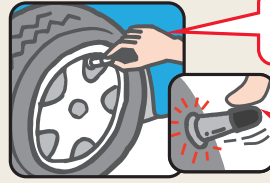
タイヤが冷えているのを確認してから  
走行直後はタイヤ、ホイールが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。



**エアゲージ**  
ホイールにあるバルブの口にセットして空気圧の過不足を測ります。



**石鹸水**  
石鹸水をつかって、バルブからの空気の流れがないか確認します。



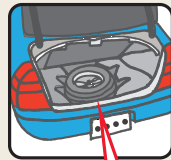
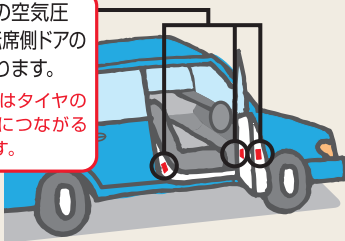
**バルブキャップ**  
点検後は、バルブのキャップを忘れがちです。しっかり締め直しましょう。

バルブキャップはしっかりと締めよう。

バルブの根元も痛んでいないか空気もれがないかチェック!

● 空気圧不足の時は、お近くのタイヤショップかガソリンスタンドなどで充填してください。

メーカー指定の空気圧表示シールは運転席側ドアのこの辺りにあります。  
空気圧の過不足はタイヤの性能低下や事故につながるおそれがあります。



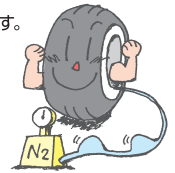
スペアタイヤの点検も忘れずに!

チッ素ガスのお勧め

タイヤの空気圧は時間とともに少しずつ低下します。チッ素は空気に比べこの“自然低下”を抑えることができます。

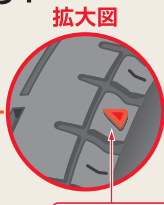
チッ素ガス充填のメリット

- ① 空気圧に比べ、内圧の低下が少ないため、管理がしやすい。
- ② 内圧の低下を抑えることにより、操縦安定性の維持向上、偏摩耗の抑制、燃費の維持に貢献する。



タイヤの外観チェック

これが摩耗の危険サインです!

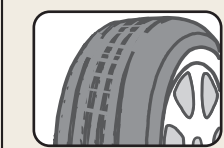


1ヶ所でも、溝がとぎれるスリップサインがでると危険です

これがスリップサイン表示マークです

残り溝が1.6ミリになる目安としてスリップサインを設けています。スリップサインが1ヶ所でも出ると使用することを法律で規制されています。

タイヤチェック、3つのポイント



**① ミゾ**  
すり減ったタイヤの雨の日は、制動距離が伸びて危険。ハイドロブレーキング現象も起こります。



**② キズ**  
小さなキズが大きなバーストを起こす可能性があります。



**③ ヒビ**  
古く劣化してヒビ割れができていないかをチェック。

タイヤの空気圧が適正值より50kPa(0.5kg/cm<sup>2</sup>)不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度それぞれ燃費が悪化します。<sup>※1</sup>

燃費悪化率2% (市街地)、月に1,000km走るとして燃費=10km/ℓ、ガソリン代=146円/ℓ<sup>※2</sup>で

なんと ガソリン代 約**3,500円/年**の損失<sup>※3</sup>

更に **CO<sub>2</sub>排出量も増加**します。

出典 / ※1: (社)日本自動車工業会

※2: 石油情報センター2007年8月平均レギュラーガソリン単価

※3: (社)日本自動車工業会のデータに基づきブリヂストンにて試算



栃木工場 / 東北新幹線・東北本線 那須塩原駅下車 タクシー約10分  
東北自動車道 黒磯板室ICより約15分

当社に関する情報は、下記ホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.bridgestone.co.jp>

株式会社ブリヂストン

栃木工場  
栃木県那須塩原市上中野10 〒329-3154  
電話 (0287) 65-3211

